

[講演要旨] 安政東海地震(1854-a)および安政南海地震(1854-b) の武者史料のピンポイント・データベース化

東京大学地震研究所 都司 嘉宣, 伊藤 純一

安政東海地震(1854-a), およびその翌日に起きた安政南海地震(1854-b)に関する記事は, 武者(1951)には活字本にして394ページ分の史料が載せられている. その後筆者の編集あいた史料集(都司, 1976-a, 1976-b, 1978, 1983)や「新収・日本地震史料」(1987, 1989, 1993)にもまたその後発掘された史料が数多く紹介されていてその合計は3000頁にも余るほどである. このような豊富で新鮮な史料があるのに, 武者の史料集なぞいまさら調べても新しい知見は得られまい, と見られるかも知れないが, そうではない. 史料集としてもっとも古い武者の地震史料集の内容ですら, 十分には活用されていないのである. 本研究では,

武者の史料集に集められた文献の記載を完全に読み尽くすとうなるか? という問いに答える試みである. そのために, 史料の語る物理的事実のエクセルによるデータベース化を試みた. すなわち, 武者の史料集に紹介されている各文献の内容を, 地点・事象内容が異なるたびに一件の単位として細大漏らさずデータベース化を行った. さらに, 地名辞書などによって死骸地図上のピンポイントとしてその事象の起きた地点を確定し, 地図化することを試みた. 例として, 安政南海地震の出雲地方についての震度分布の結果を示しておく.

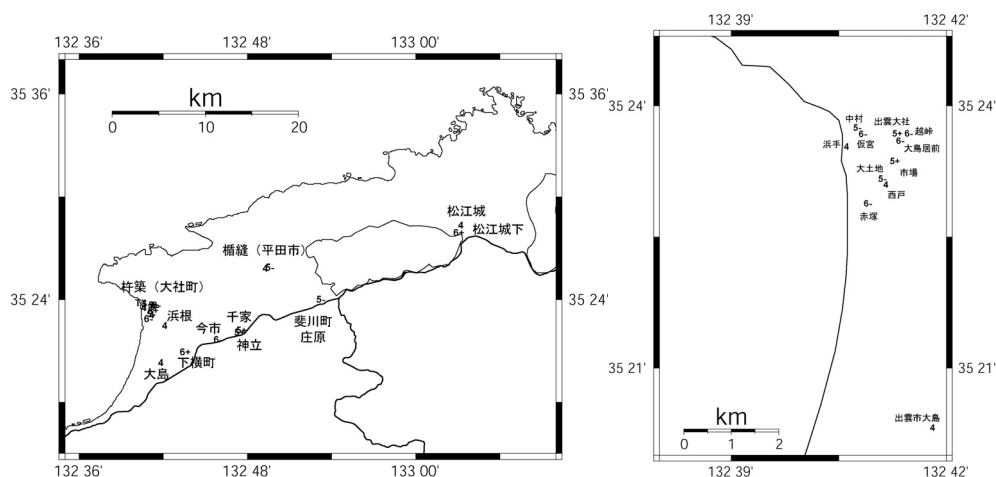


図1. 安政南海地震による出雲地方のピンポイント震度分布図